

環境マネジメント

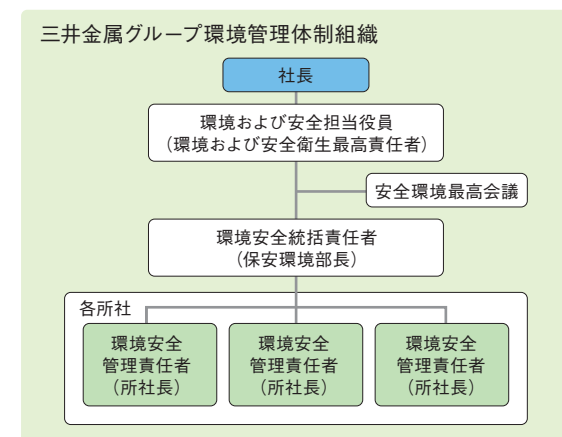
「事業活動のあらゆる面で環境保全に配慮して行動する」という理念を実践し、確かな効果をあげるため、現場に密着した環境管理や環境教育の強化に努めています。

▶ 環境マネジメントシステムの構築

三井金属グループは、2001年策定の「環境行動計画」において各事業所の「ISO14001の認証取得もしくはこれに準拠した環境管理体制の整備」を掲げ、2007年3月末までに予定していた37所社すべての構築を完了しました。以後、環境マネジメントシステムに基づき、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）のサイクルを実践し、環境マネジメントシステムの定着を図っています。

▶ 環境管理体制

三井金属グループでは、安全環境に関する最重要事項を審議する場として「安全環境最高会議」を設けています。環境および安全衛生最高責任者を議長とし、各事業ラインの長をメンバーとする本会議において審議・決定された方針や行動計画は、環境および安全担当役員の指揮の下、環境安全統括責任者（保安環境部長）によって三井金属グループ各所社への展開が図られます。各所社では、所社長が環境安全管理責任者となり決定事項を確実に実行していきます。



樋口 修
取締役 兼 CRO
(最高危機管理責任者)
兼 常務執行役員 兼 環境および安全衛生最高責任者

現場に密着した活動を推進してまいります。

環境保全と環境負荷の低減は企業の使命であり、三井金属グループでも経営上の最優先課題と位置付けています。また、安全衛生の徹底は企業発展の要であり、地域社会に対する重要な責務と考えています。着実に成果をあげることができるよう、現場に密着した活動を積極的に進めてまいります。

▶ 環境監査

リスクをいち早く発見し、改善しています

工場、事業所など生産活動を実施している全44サイトを対象に環境監査を実施しています。鉱山や製錬など環境リスクの高いサイト（Bサイト）では毎年1回、部品加工など比較的環境リスクの低いサイト（29サイト）では2年に1回実施。2008年度は30サイトの環境監査を実施しました。

環境監査は通常2名以上で実施し、前回監査の指摘事項の対応状況や足元のリスクを現地で確認。さらに、ISO14001に則った監査とパフォーマンスデータ（排水や排ガス測定値など）の確認を行います。監査は半日から2日を費やして行い、その結果、さまざまな指摘事項が出されますが、各サイトではおおむね当該年度内にすべて処置を完了させています。

尚、2009年からは、一部監査方法を見直し、監査員の1名を被監査所社以外の環境安全担当課長として他所社を監査すること、リスクの低いサイトについては安全監査と環境監査を同時に実施することにしています。

▶ 環境管理への投資と経費

三井金属グループでは、環境への影響の予防、負荷低減のために必要な経営資源の投入を行っています。

環境管理のための経費は約43億円で、ほぼ前年と同じ金額で推移しています。環境関連投資は約24億円で前年比約36%削減となっています。これは、2005年から2007年度にかけて実施した神岡鉱山での重油流出事故を契機にした漏洩防止対策の設備投資が完了したためです。

主要な設備投資は次の通りです。

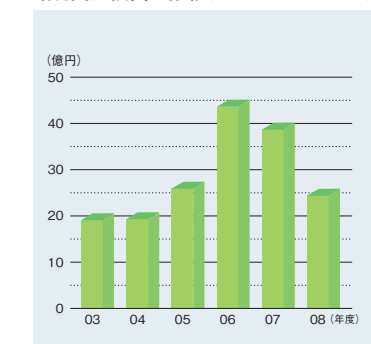
環境管理経費額（単位：億円）

| | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 |
|----------------|--------|--------|--------|
| 廃棄物処理委託費用 | 11.4 | 8.2 | 6.0 |
| エネルギー費用 | 6.1 | 6.1 | 5.4 |
| 保修費 | 3.9 | 3.6 | 4.0 |
| その他(労務費、物品費など) | 21.9 | 25.3 | 27.2 |
| 環境管理経費 計 | 43.3 | 43.2 | 42.8 |

2008年度の設備投資内容（投資額上位3所社）

| 所社 | 投資内容 |
|------------|--|
| 神岡鉱業(株) | 硫酸工場コントロール更新、廃水処理施設の修繕、鉛リサイクル工場脱硫設備の増強 |
| 八戸製錬(株) | ボイラー排ガス浄化用電気集塵機設置 |
| 日本メサライト(株) | 産業廃棄物処理設備の増強 |

環境関連投資の推移（2003年度分～2008年度分）



▶ 環境教育

社員一人ひとりの意識向上を図っています

三井金属グループでは、社員一人ひとりが環境に対して高い意識を持ち、各職場で実践していくことが環境活動の推進力と考え、その基本となる環境法令遵守へ向けた教育を階層別に実施しています。

現場に直結した法令研修会の開催

環境法令遵守を推進するため、2003年度から全所社を対象に、本社での集合教育として環境関連法令研修会を開催。2005年度からは各所社の現場担当者（係長、作業長層）を対象に、自身が直接関わっている環境側面に対する法的な要求事項の理解を目的に、複雑多岐にわたる環境関連法令について研修会を開催し理解を深めています。2006年度からは労働安全衛生関連法令と環境関連法令の研修会を併せて開催しています。2008年度は4所社での現場担当者研修会を開催するとともに、本社での階層別環境教育・研修も実施しました。

2008年度の法令研修実績

| 実施日 | 開催場所(所社) | 対象法令 | 参加人員 |
|--------------|--------------|-----------------------------------|------|
| 2008年6月4日 | 神岡部品工業(株) | 労働安全衛生法及び関連法規、環境法令(水濁法) | 25 |
| 2008年6月5日～6日 | 大井製作所(株)九州工場 | 労働安全衛生法及び関連法規、環境法令(水濁法、廃掃法、騒音、振動) | 37 |
| 2008年6月17日 | 研修センター(営業) | 環境法令(廃掃法、バーゼル条約、PRTR法、グリーン調達) | 29 |
| 2008年9月12日 | 三谷伸銅(株) | 環境法令(水濁法、下水道法、廃掃法) | 27 |

環境リーダーを育てる内部監査員教育

三井金属グループでは、2003年から内部監査員の教育を初級コース（内部監査を実施する者）、上級コース（内部監査員を教育指導すべき立場の者）に分けて開催。現在まで、初級コースで699名、上級コースで155名が教育を終了し、内部監査員として、あるいは内部監査員の教育指導者として活躍しています。今後も教育の充実を図り、各所社のレベルアップを図ってまいります。